

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算説明資料

東証スタンダード・福証 証券コード8596

2025年11月

株式会社九州リースサービス

目次

1 2026年3月期 第2四半期決算の概要

2 セグメントの状況

3 2026年3月期 業績予想・配当予想

エグゼクティブ・サマリー

1 リース・割賦、ファイナンスを中心に堅調に推移、中間純利益は2期連続の増益

- 前年の大口案件反動減がある不動産セグメントを除いて、各セグメントで増収増益の実績
特に、リース・割賦及びファイナンスの両セグメントで計画以上の新規取扱高を確保し、収益基盤を拡充するとともに、今期の成長を牽引
- 一過性に因らない基礎的な収益が伸長したことに加え、資金調達面での効率化や、与信管理の強化がコスト抑制につながり、中間純利益は2期連続での増益を確保

2 営業資産残高は2,061億円（前期末比+158億円、8.3%増）

- 利回りや効率性を重視した資産の入替に注力することを基本に、将来の収益実現に向けた新規投資にも積極的に取り組み、ファイナンスと不動産を中心に営業資産を拡大

3 中間配当は当初予想通りの一株当たり28円の配当を実施

- 現中計期間中の累進配当かつDOE3.0%以上とする株主還元方針のもと取り組み
- 足許の業績は、通期計画通りに進捗。現時点においては、年間配当56円（前期比+3円・7期連続での増配）の配当予想とし、中間期では一株当たり28円を配当
- 引き続き、収益力の強化と資本の最適化を図りながら、ROE向上、企業価値の向上を目指す

1

2026年3月期 第2四半期決算の概要

2026年3月期 第2四半期決算概要

- 前期の大口不動産売却の反動減を主因として減収、営業利益・経常利益は減益
当期純利益は2期連続での増益の実績（前年との差異の詳細は次頁以降を参照）
- リース・割賦、ファイナンスを中心とした新規取扱高の好調な推移に加えて、市場金利上昇を踏まえた採算性を意識した取引を徹底し、資産の入替・積み上げと利回り改善による相乗的な収益獲得に注力

単位：百万円、%

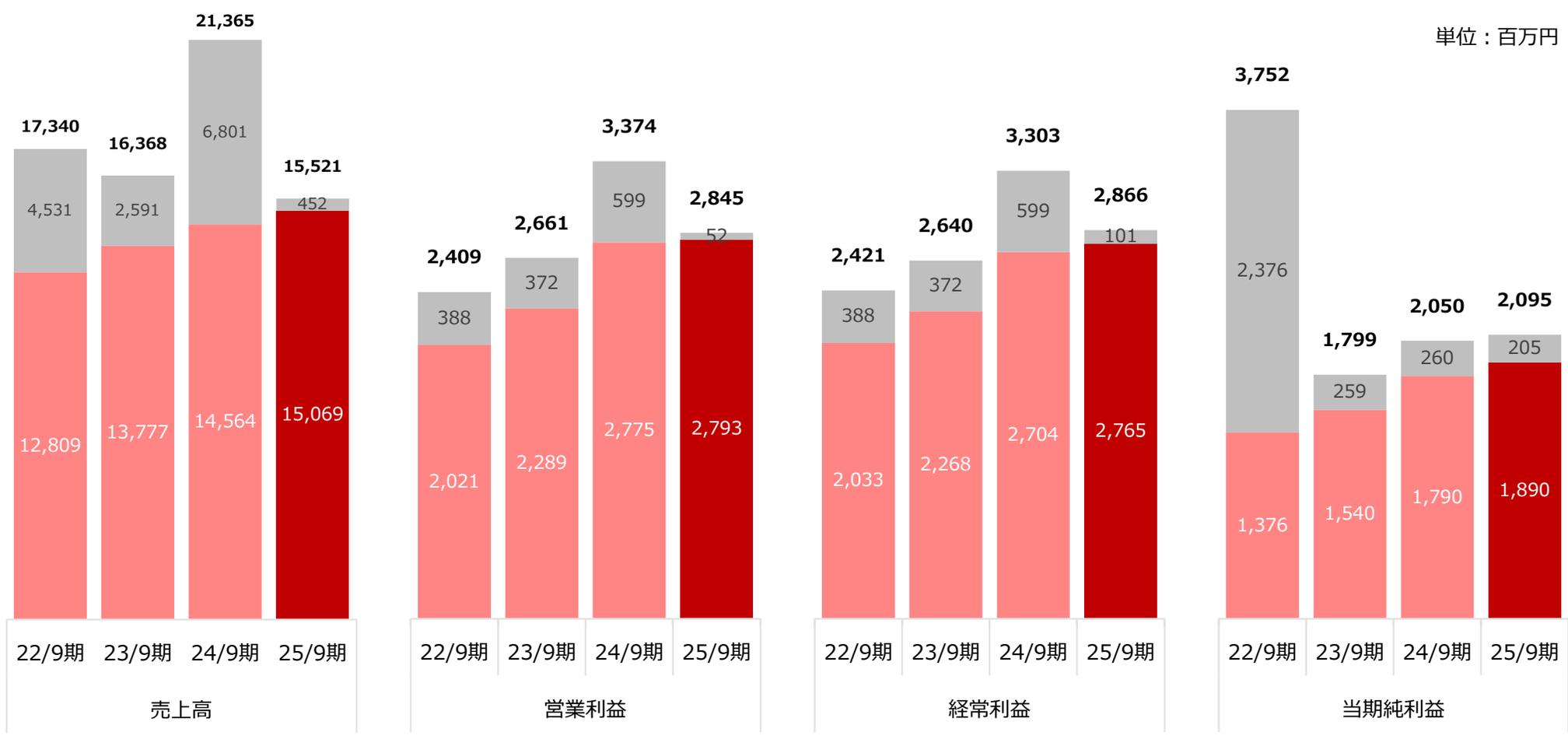
	2025/3期2Q		2026/3期2Q		
	実績	構成比	実績	構成比	増減率
売上高	21,365	100.0	15,521	100.0	△27.4%
営業利益	3,374	15.8	2,845	18.3	△15.7%
経常利益	3,303	15.5	2,866	18.5	△13.2%
当期純利益※	2,050	9.6	2,095	13.5	2.2%

※親会社株主に帰属する中間純利益、以下同じ

2026年3月期 第2四半期 前年実績との差異について

一過性要因を除いた基礎部分で見れば増収増益基調であり、持続的な成長を実現できている
 安定的なストック収益と、投資と回収の回転によるフロー収益の両方の成長から通期計画の達成を目指す

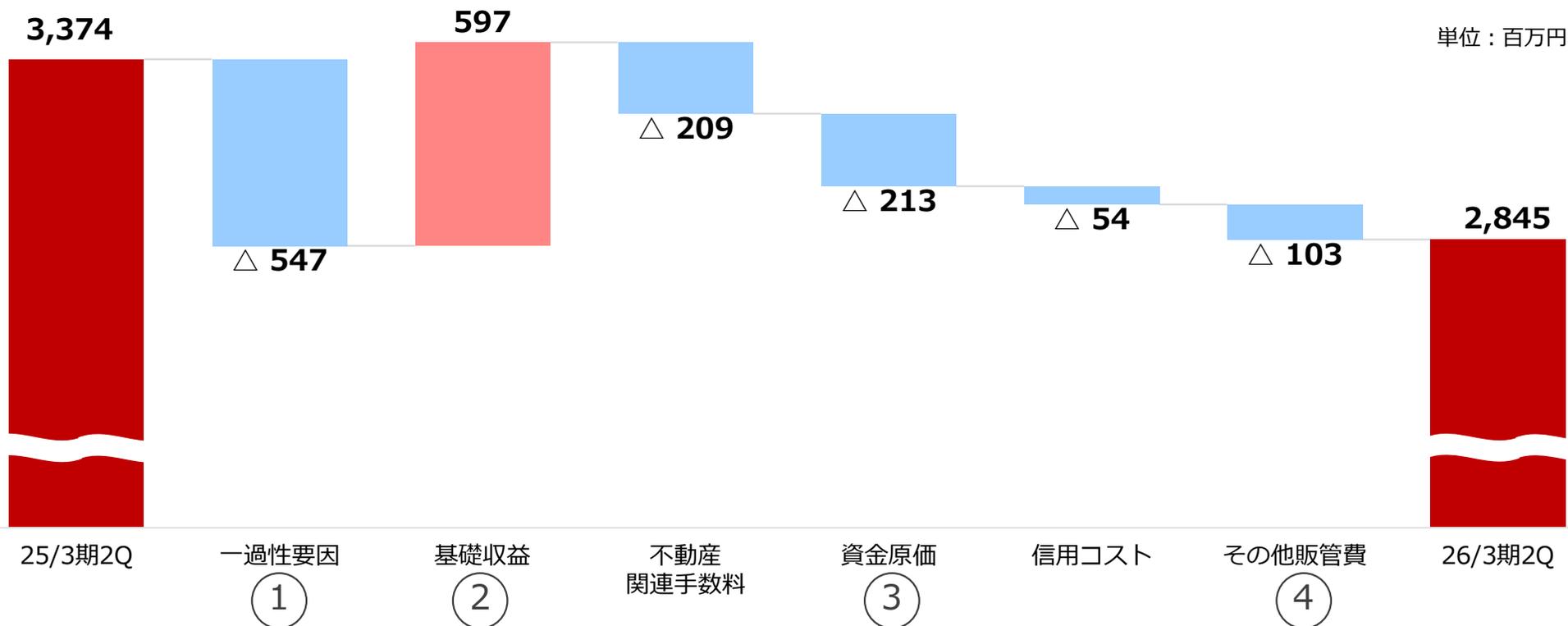
■ 一過性要因 ※一過性要因に含むもの……販売用不動産売却、満了等に伴う建物リース売却、有価証券売却、物件処分による税金費用減少



営業利益の増減要因（項目別）

リース・割賦、ファイナンスの資産拡大及び利回り改善のほか、賃貸不動産の新規開発や賃料引き上げなどから安定的なストック収益が拡大、資金コストや信用コストの増加を打ち返して営業利益を確保

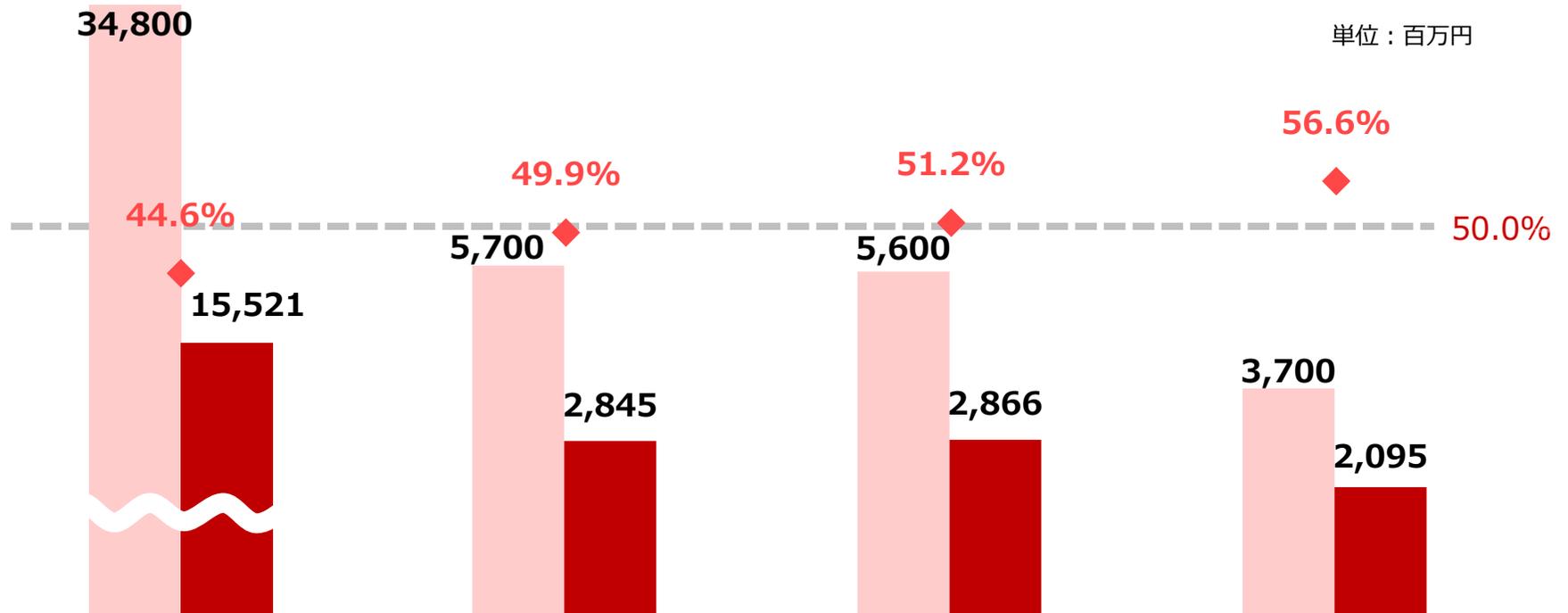
販管費の増加は賃上げや新規システム導入等が要因であり、将来に向けた人的資本投資やDX投資を推進



① 一過性要因	前期計上した販売用不動産売却益の剥落 (△580)、建物リース売却による収益増 (+33)
② 基礎収益	営業資産拡大、利回り改善による収益増 (リース割賦+238、ファイナンス+167、賃貸不動産+124 他)
③ 資金原価	金利上昇影響 (△181) と資産増に伴う借入残高増加 (△32) による資金コスト増加
④ 販管費	人的資本への投資強化 (△61)、DX関連投資等に伴う減価償却費の増加 (△36)

通期計画に対する第2四半期の進捗状況

各段階利益とも、通期計画に対して50%前後となり、順調な進捗状況



	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
■ 通期計画	34,800	5,700	5,600	3,700
■ 第2四半期	15,521	2,845	2,866	2,095
◆ 進捗率	44.6%	49.9%	51.2%	56.6%

貸借対照表

- 資産合計は前期末比165億円の増加。主に、営業貸付金、販売用不動産、割賦債権、投資有価証券（匿名組合出資）など、営業資産の増加によるもの
- 資産増加に伴い負債合計は151億円の増加。短期借入金には今期より活用を始めたコマーシャルペーパーを含む

単位：百万円

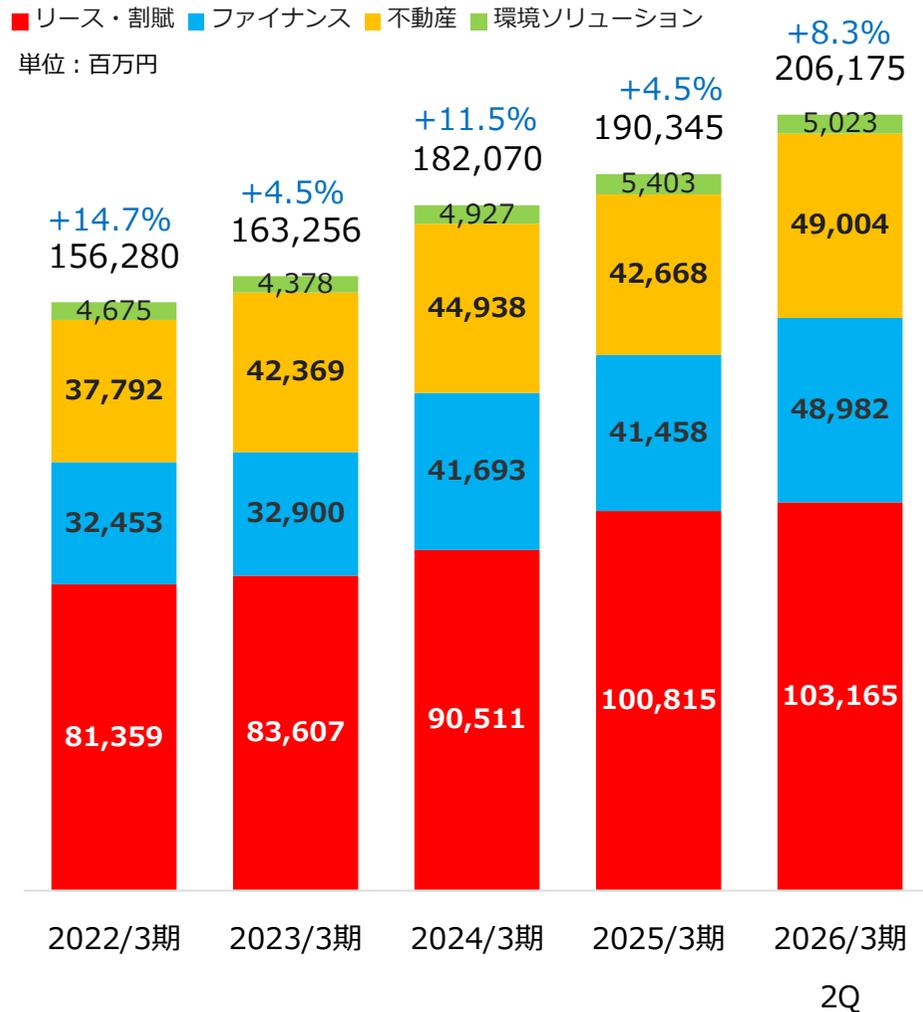
	25/3期末	26/3期 2Q末	増減額
流動資産	150,252	164,530	14,278
現金及び預金	4,907	4,798	△ 109
割賦債権	29,659	31,964	2,304
リース債権及び リース投資資産	64,399	64,602	202
営業貸付金	41,118	48,622	7,504
販売用不動産	9,389	14,003	4,614
固定資産	51,679	53,910	2,230
有形固定資産	38,764	38,401	△ 362
賃貸不動産(純額)	27,570	27,346	△ 223
その他賃貸資産 (ホーディングリース資産)	7,572	7,416	△ 155
無形固定資産	506	466	△ 40
投資その他の資産	12,408	15,043	2,634
投資有価証券	10,494	13,069	2,573
資産合計	201,932	218,441	16,508

	25/3期末	26/3期 2Q末	増減額
流動負債	49,448	59,246	9,797
1年以内償還予定社債	500	500	-
短期借入金	38,572	49,708	11,135
その他流動負債	10,374	9,036	△1,337
固定負債	109,854	115,170	5,316
社債	18,800	18,550	△ 250
長期借入金	79,646	84,912	5,265
負債合計	159,302	174,416	15,114
純資産	42,630	44,024	1,394
負債純資産合計	201,932	218,441	16,508
自己資本比率 (%)	21.0	20.1	△0.9

営業資産の推移

各セグメントで資産を積み上げ、営業資産残高は前期末比+158億円（+8.3%）の2,061億円

利回りや効率性を重視した資産の入替を進めながら、資産回転型のビジネスを加速させることで収益成長を目指す。足許では、将来の収益実現に向けた積極的な新規投資に取り組み、営業資産拡大



セグメント別営業資産残高の増減状況

単位：百万円

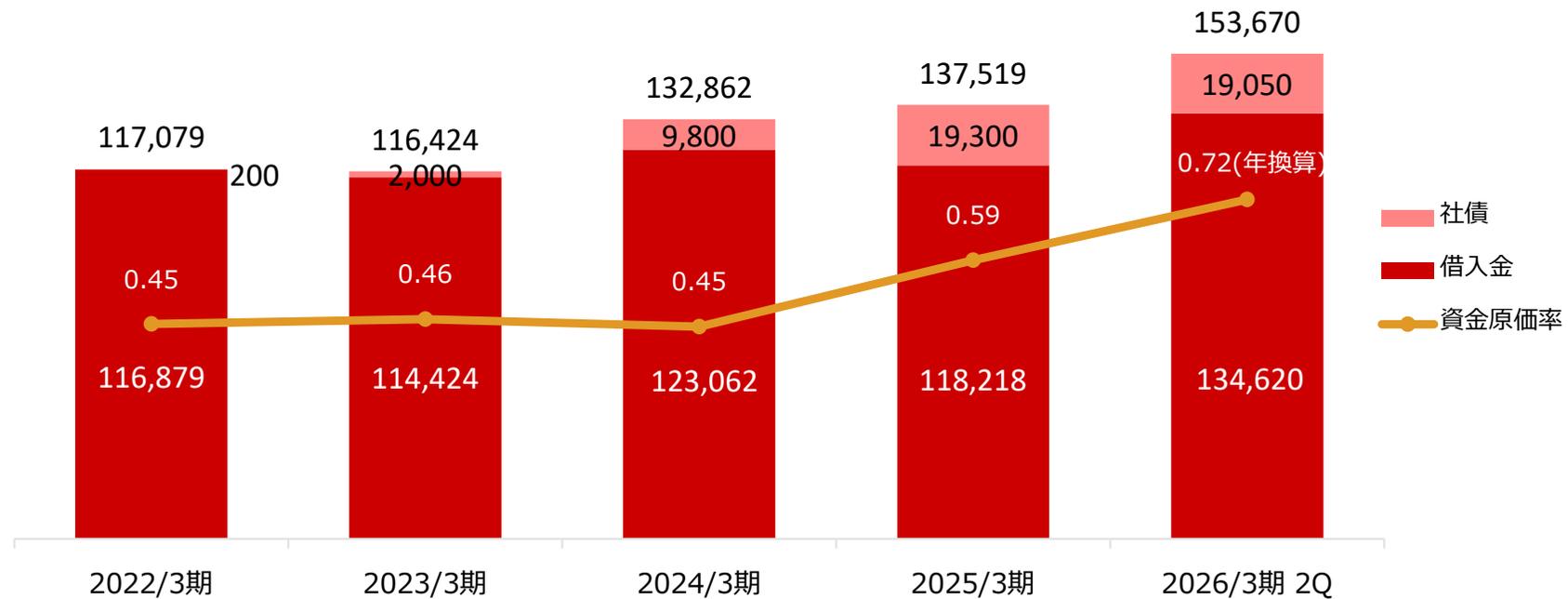
	2025/3期	2026/3期 2Q末	増減額	増減率
リース・割賦	100,815	103,165	2,349	2.3%
ファイナンス	41,458	48,982	7,523	18.1%
不動産	42,668	49,004	6,336	14.8%
環境ソリューション	5,403	5,023	△379	△7.0%
合計	190,345	206,175	15,830	8.3%

調達状況

- 借入金・社債残高は、営業資産残高の増加に伴い、前期末比+161億円の1,536億円
第2四半期よりCPの活用を開始し、調達手段の多様化を進めながら効率的な資金調達に取り組む
- 政策金利引上げに伴い、既存借入の変動金利部分と新規調達の借入金利が上昇
短期的にはコスト増加が先行するものの、リース・割賦、ファイナンスの新規実行分への転嫁を促進し、タイムラグの縮減に努める

【借入金・社債残高 および 資金原価率】

(百万円、%)

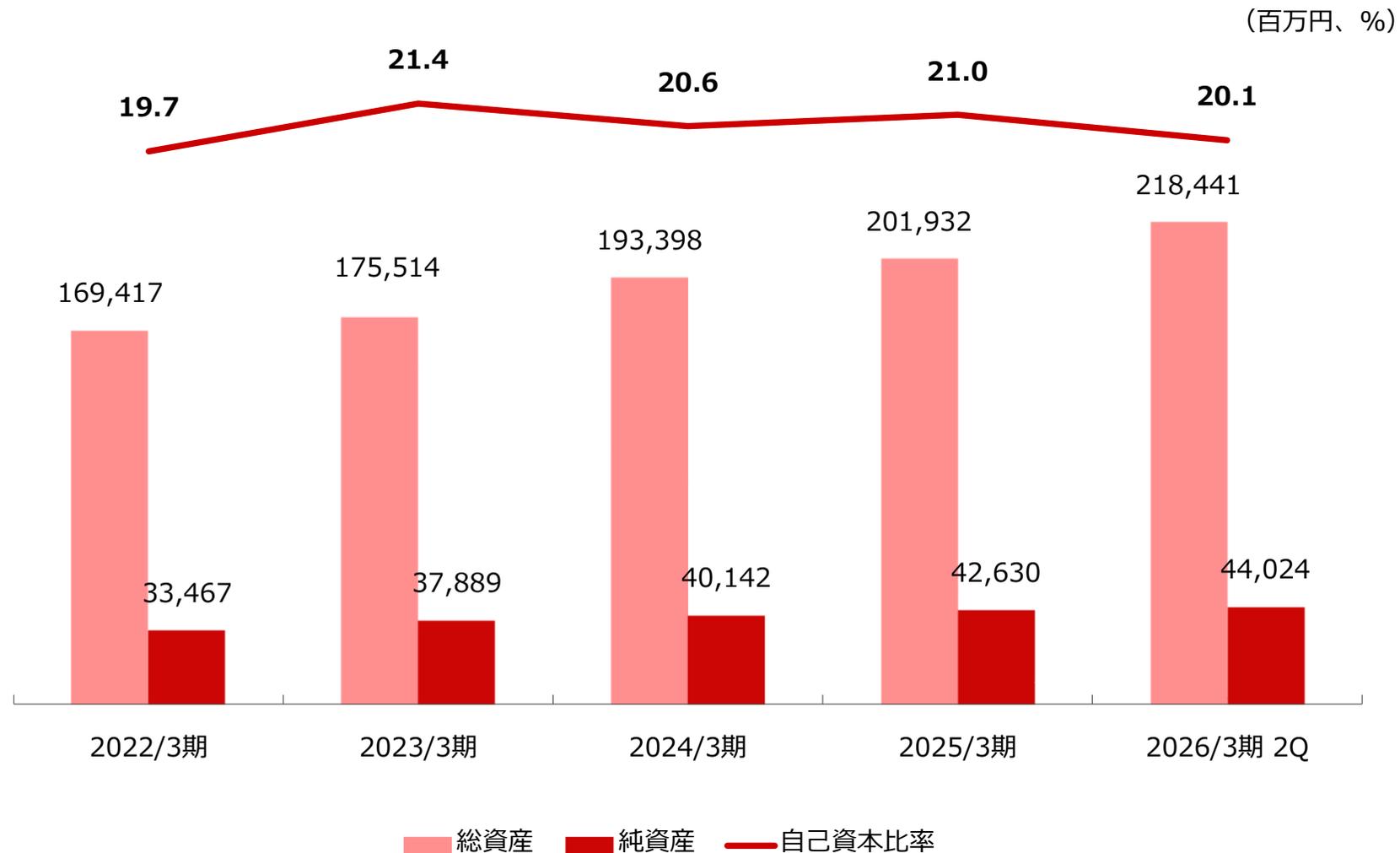


(注) 資金原価率 = 資金コスト ÷ 営業資産 (期首期末平均残高)

資金コスト = 資金原価 + 支払利息 + 社債発行費

総資産・純資産・自己資本比率の推移

安定的な資金調達に向けた外部評価の維持・向上や、リスクバッファの観点から、一定の自己資本比率は確保しつつ、収益力の強化と、高い水準での株主還元を目指すことで資本効率の改善を図る



成長市場であるロジスティクス分野への取組みを加速

- **シンガポールの大型物流施設「8 Jurong Pier Road（以下、8JPR）」**を、SPC（特別目的会社）を活用し、事業パートナーである福岡地所株式会社などと共同で取得
中長期的な収益不動産として運用
- シンガポールは、アジア最大の貨物空港であるチャンギ国際空港のほか、世界第2位のコンテナ取扱量を誇るシンガポール港を有する世界の物流拠点
8JPRが位置する西側地区は、製造業や物流業が集積するほか、石油・化学産業特区である人工島（Jurong島）を含むエリアで、**物流施設のニーズが非常に大きく、高い稼働による高収益が見込まれる**
- 経済活動を支える不可欠な社会インフラであるロジスティクス分野への投資を通じて、海外市場を含めた成長領域への展開強化と収益獲得を目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献

✓ 物流施設：8JPR



✓ 物件所在地



トランクルーム事業の連携強化

- コンテナやビル内のレンタル収納スペースを提供するトランクルーム事業を行う株式会社ストレージ王（以下、ストレージ王）の株式を追加取得し、**2025年7月より持分法適用会社化**
- 在宅ワークや住空間の変化、家賃・建築コスト高騰を背景に、**自宅やオフィスに入りきらない物を保管するニーズが高まる中、トランクルーム市場は拡大**
 ストレージ王は、関東を中心に**208カ所/12,004室（2025年7月末時点）のトランクルームを展開** 収納スペースを賃貸するだけでなく、土地の有効活用や投資用不動産としての活用など幅広いニーズに対応し、安定した業績と将来の成長性が見込まれる企業
- 当社グループにおいても、賃貸用・販売用不動産としてトランクルームを保有しており、ストレージ王とは従前より連携
 今回、**持分法適用会社とすることで、より緊密な協力体制を構築**し、九州エリアでの新規出店や土地情報の共有などから、シナジー発揮による両社の事業拡大を目指す

✓ ストレージ王 企業概要

会社名	株式会社ストレージ王			
本社所在地	千葉県市川市市川南			
代表者	代表取締役社長執行役員 荒川 滋郎			
設立	2008年5月			
事業内容	トランクルームの企画・開発・運営・管理			
上場市場	東京証券取引所グロース市場（コード:2997）			
直近期業績 (2025年1月期) 単位:百万円	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	4,262	171	170	75

✓ ストレージ王が提供するトランクルーム一例



2

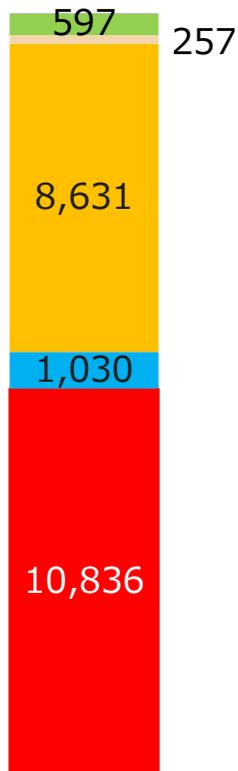
セグメントの状況

セグメント別 売上高・利益

前年の反動減がある不動産セグメントを除いて、各セグメントとも増収増益の実績

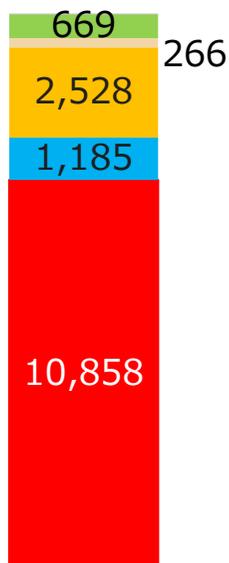
【売上高】

21,365



2025/3期2Q

15,521



2026/3期2Q

- 環境ソリューション
- フィービジネス
- 不動産
- ファイナンス
- リース・割賦

【セグメント利益】 セグメント間調整前

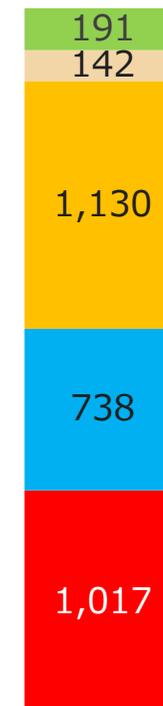
単位：百万円

3,692



2025/3期2Q

3,206

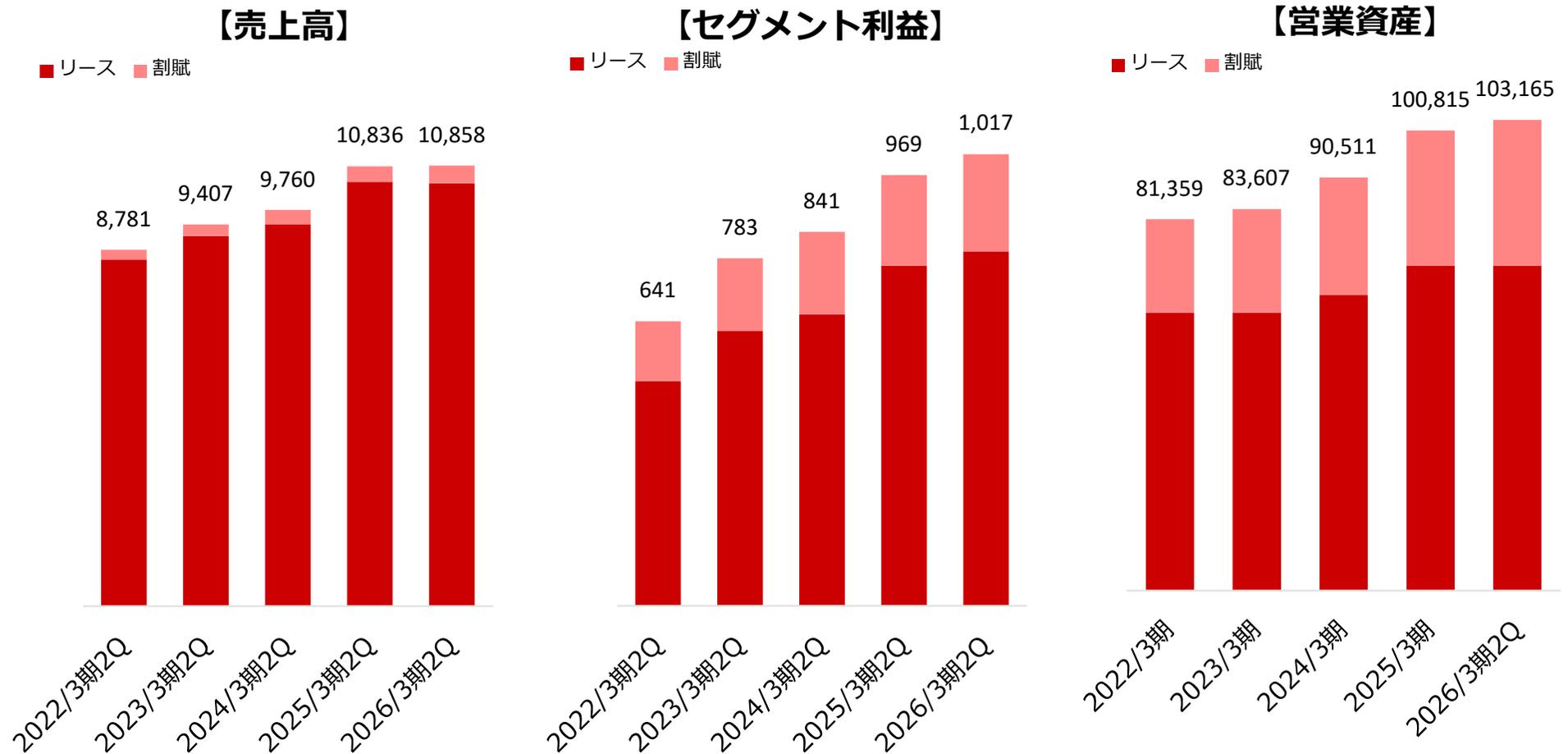


2026/3期2Q

セグメントの状況（リース・割賦）①

商業用設備などを中心に新規取扱高が堅調に推移、建物リース売却等も寄与し、増収増益の実績
 売上高は前年同期比0.2%増、営業利益は5.0%増、営業資産残高は前期末比2.3%増

単位：百万円



セグメントの状況（リース・割賦）②

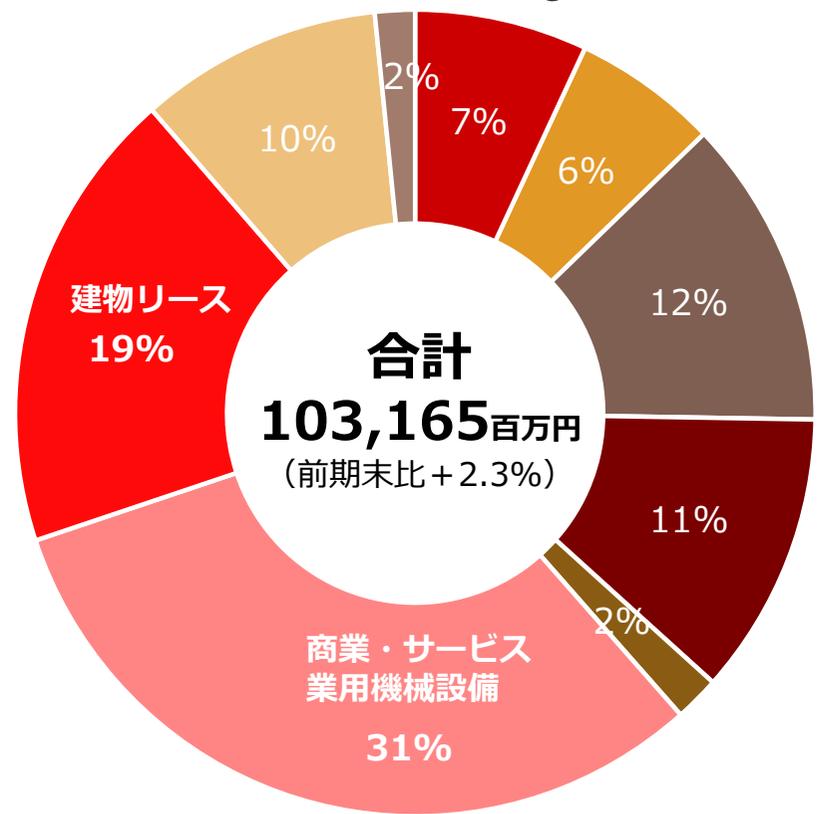
リース・割賦営業資産残高の機種別シェアは前期末時点から概ね変動なし
収益性が高く比較的長期契約となる建物リースに注力

【リース・割賦営業資産残高（機種別）】

(参考) 2025/3期 期末



2026/3期 2Q

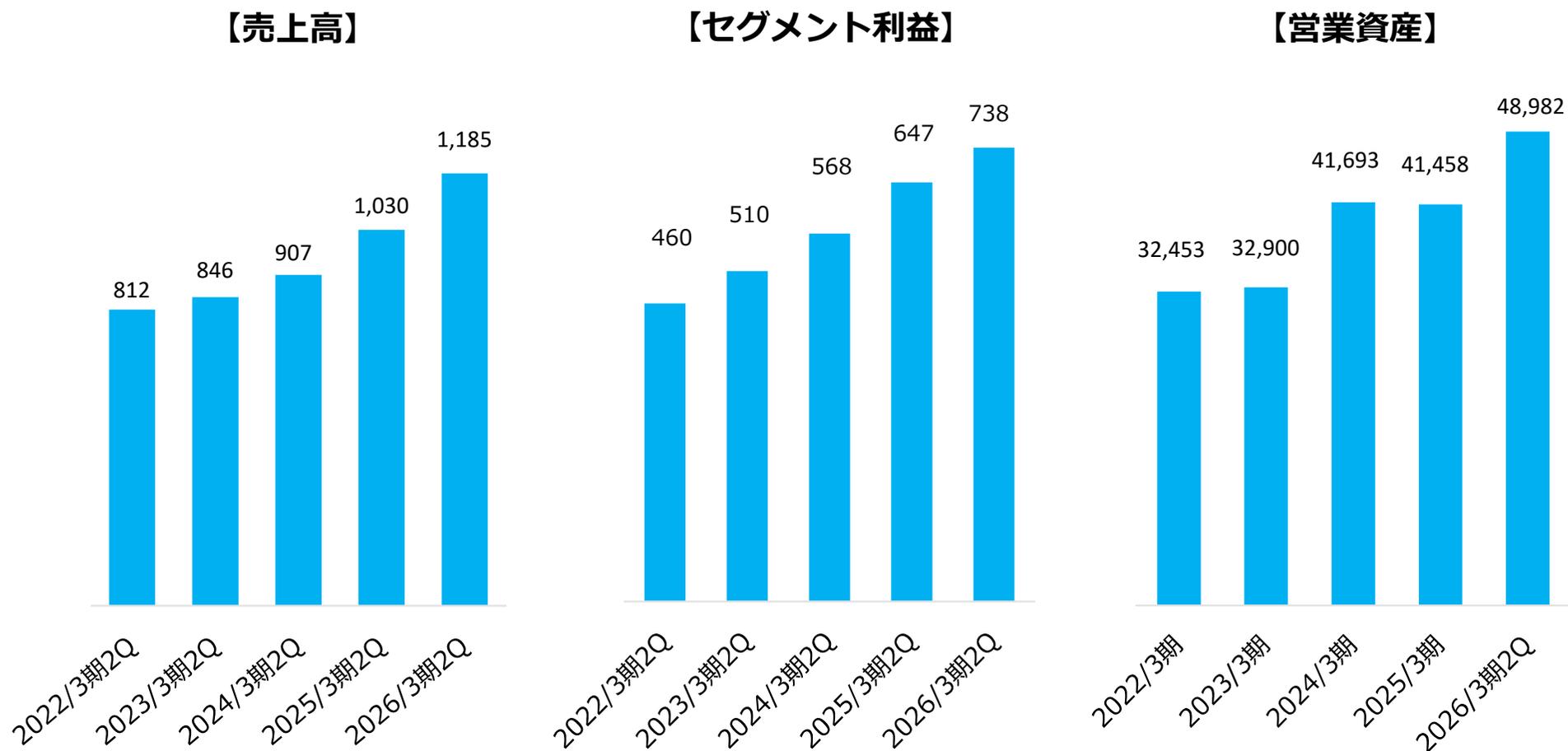


- 情報関連・事務用機器
- 産業工作機械
- 土木建設機械
- 輸送用機器
- 医療機器
- 商業・サービス業用機械設備
- 建物リース
- 太陽光設備
- その他

セグメントの状況（ファイナンス）

外部金利環境を踏まえ新規実行では変動金利を適用するなど、収益性を重視した営業戦略を徹底
貸出残高増加による利息収入の拡大及びファイナンス手数料収入の増加により増収増益
売上高は前年同期比15.0%増、営業利益は14.1%増、営業資産残高は前期末比18.1%増

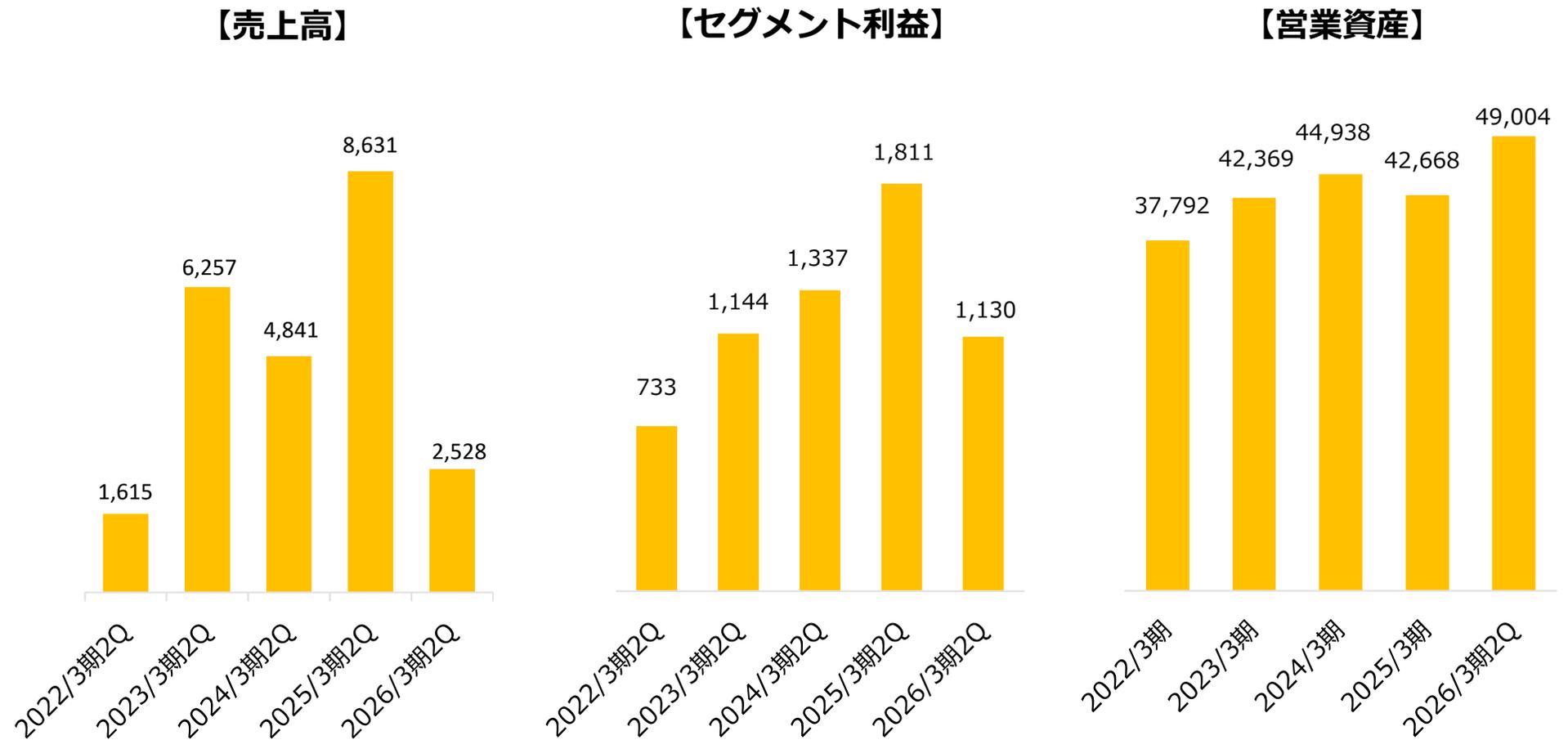
単位：百万円



セグメントの状況（不動産）①

前年計上した販売用不動産売却収入の剥落を主因に減収減益の実績（セグメント内訳は次頁を参照）
 売上高は前年同期比70.7%減、営業利益は37.6%減、営業資産残高は販売用不動産の取得等により前期末比14.8%増

単位：百万円



セグメントの状況（不動産）②

高い稼働率を維持しながら市場動向に合わせた賃料引き上げ交渉により賃貸不動産の収益向上
販売用不動産については市況を見極めながら、利回りや築年数を考慮した資産の入替を推進する方針
第2四半期までは販売用不動産売却の実績はなく、新規取得を進めている状況

仲介手数料は前期大口取引計上の反動から減益となったが、計画に対しては順調な進捗

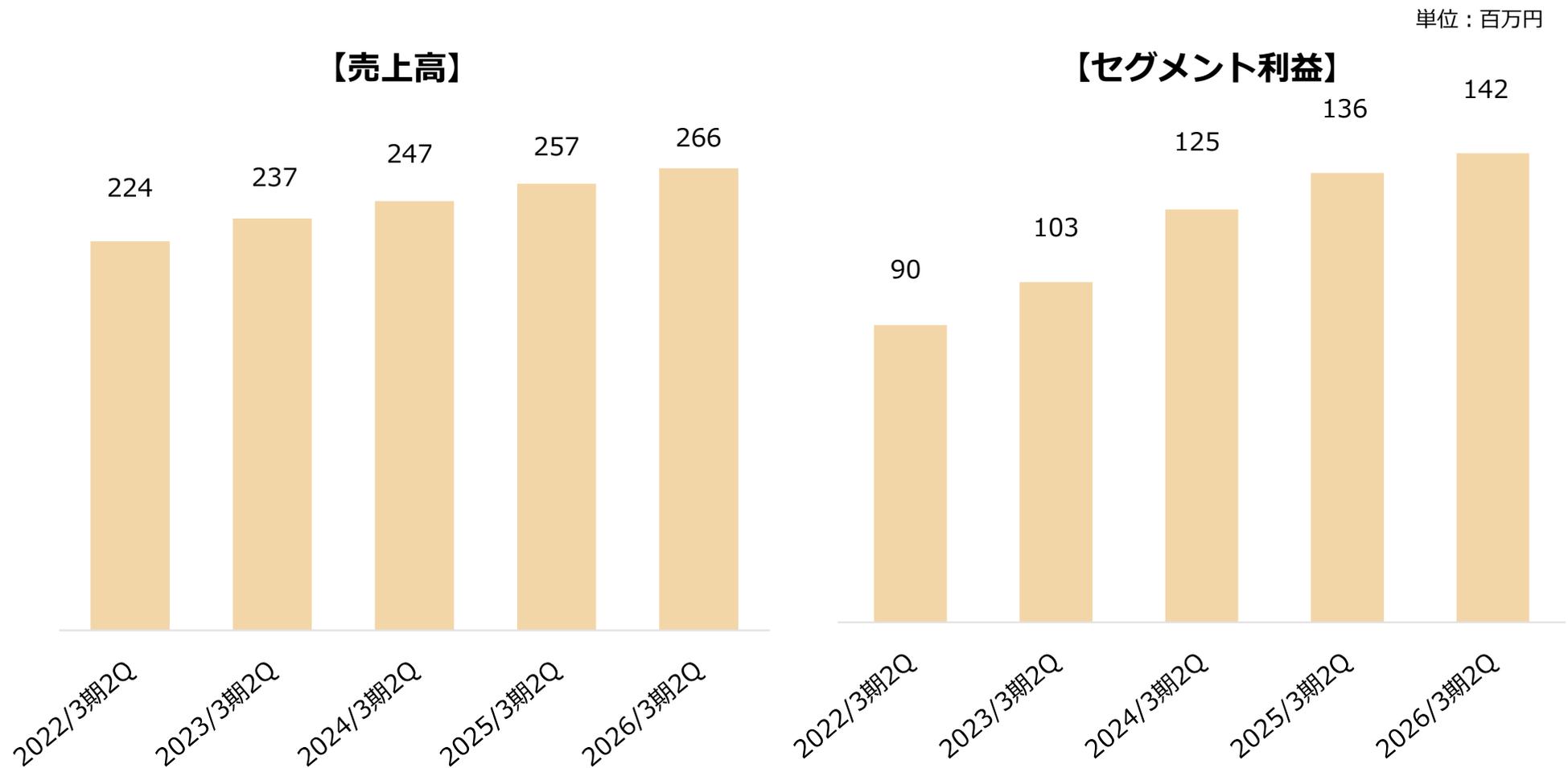
■ 不動産セグメント内訳

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2025/3期 2Q	2026/3期 2Q	増減率 %	2025/3期 2Q	2026/3期 2Q	増減率 %
賃貸不動産	1,659	1,720	+3.7	789	826	+4.7
販売用不動産	6,331	321	△94.9	642	118	△81.6
仲介手数料	513	328	△36.1	312	92	△70.3
その他 (匿名組合投資収益等)	126	158	+25.5	66	92	+39.7
合計	8,631	2,528	△70.7	1,811	1,130	△37.6

セグメントの状況（フィービジネス）①

カーリース手数料収入及び保険代理店収入が堅調に推移し、増収増益
 売上高は前年同期比3.5%増、営業利益は4.0%増



(注) 2019/3期以前は環境ソリューションセグメント調整前

セグメントの状況（フィービジネス）②

リース・割賦やファイナンス、不動産のお取引先に対する複合取引の推進により収益拡大に貢献
 高効率のノンアセットビジネスとして注力

■セグメント内訳

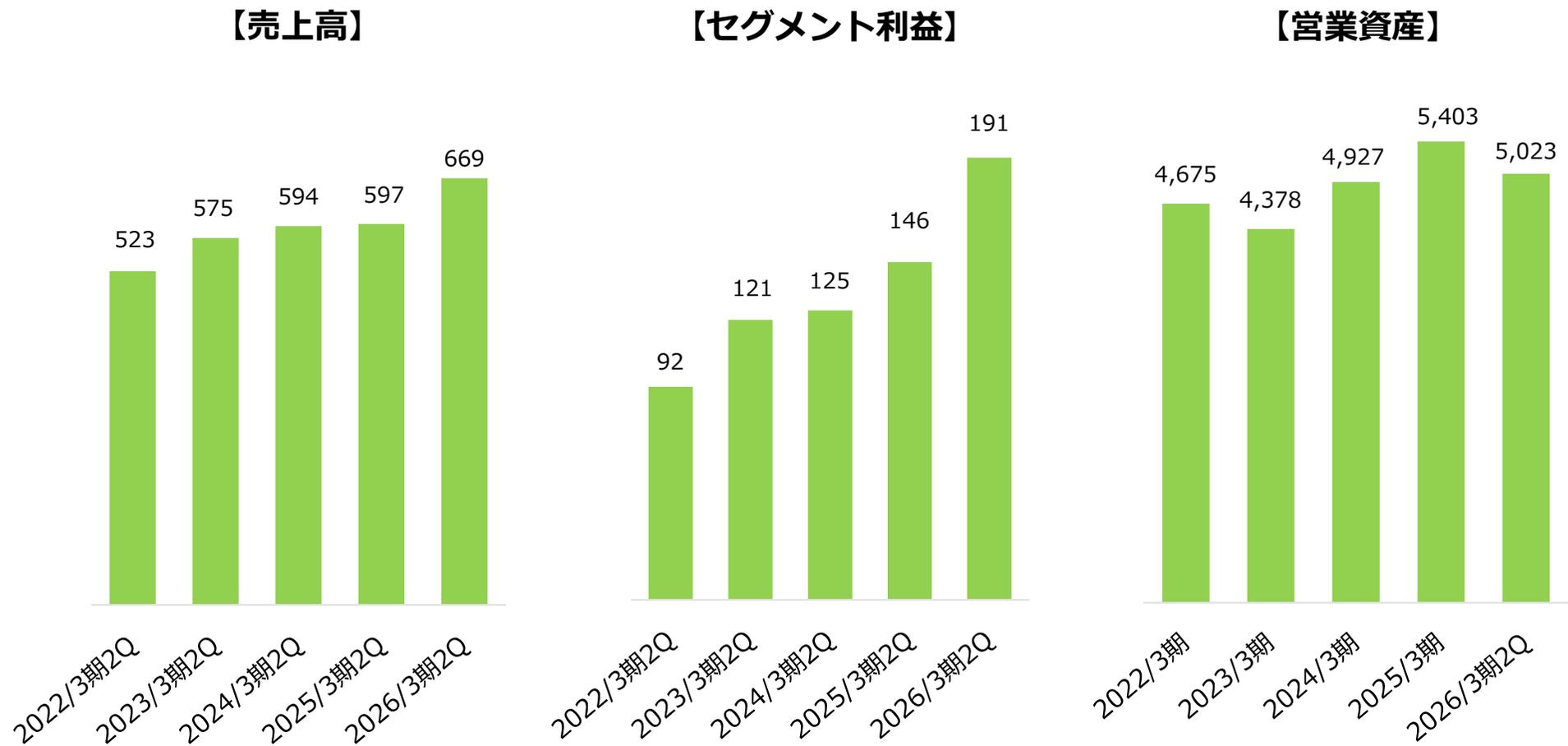
単位：百万円

	売上高			セグメント利益		
	2025/3期 2Q	2026/3期 2Q	増減率 %	2025/3期 2Q	2026/3期 2Q	増減率 %
カーリース紹介料	167	168	+0.9	83	81	△2.1
生命保険手数料	40	42	+4.0	23	25	+7.4
損害保険手数料	41	45	+9.2	24	28	+15.7
その他	7	9	+26.6	4	6	+32.2
合計	257	266	+3.5	136	142	+4.0

セグメントの状況（環境ソリューション）

■ 売電収益が堅調に推移したことに加え、環境関連分野向けの匿名組合投資収益により、増収増益
 売上高は前年同期比12.1%増、営業利益は30.3%増。営業資産残高は太陽光発電設備の減価償却及び
 匿名組合出資の一部償還により前期末比7.0%減

単位：百万円



3

2026年3月期 業績予想・配当予想

2026年3月期 業績予想

- 金利上昇による資金コスト増加や、企業倒産による信用コスト増加が収益押し下げ要因となる中、リースを中心としたコアビジネスの安定的な成長と、ノンアセットビジネスの強化により各セグメントで収益力向上を図り、コスト増を打ち返して前期以上の利益を確保する計画
- 第2四半期までで各段階利益ともに50%前後の進捗率であり、順調に推移引き続き、通期計画の達成を目指し業務に邁進

単位：百万円

	2025/3期実績		2026/3期		
	実績	構成比	通期予想	2Q実績	進捗率
売上高	39,338	100.0	34,800	15,521	44.6%
営業利益	5,651	14.4	5,700	2,845	49.9%
経常利益	5,584	14.2	5,600	2,866	51.2%
当期純利益	3,569	9.1	3,700	2,095	56.6%
営業資産残高	190,345	—	204,400	206,175	112.6% (増加額に対する進捗)

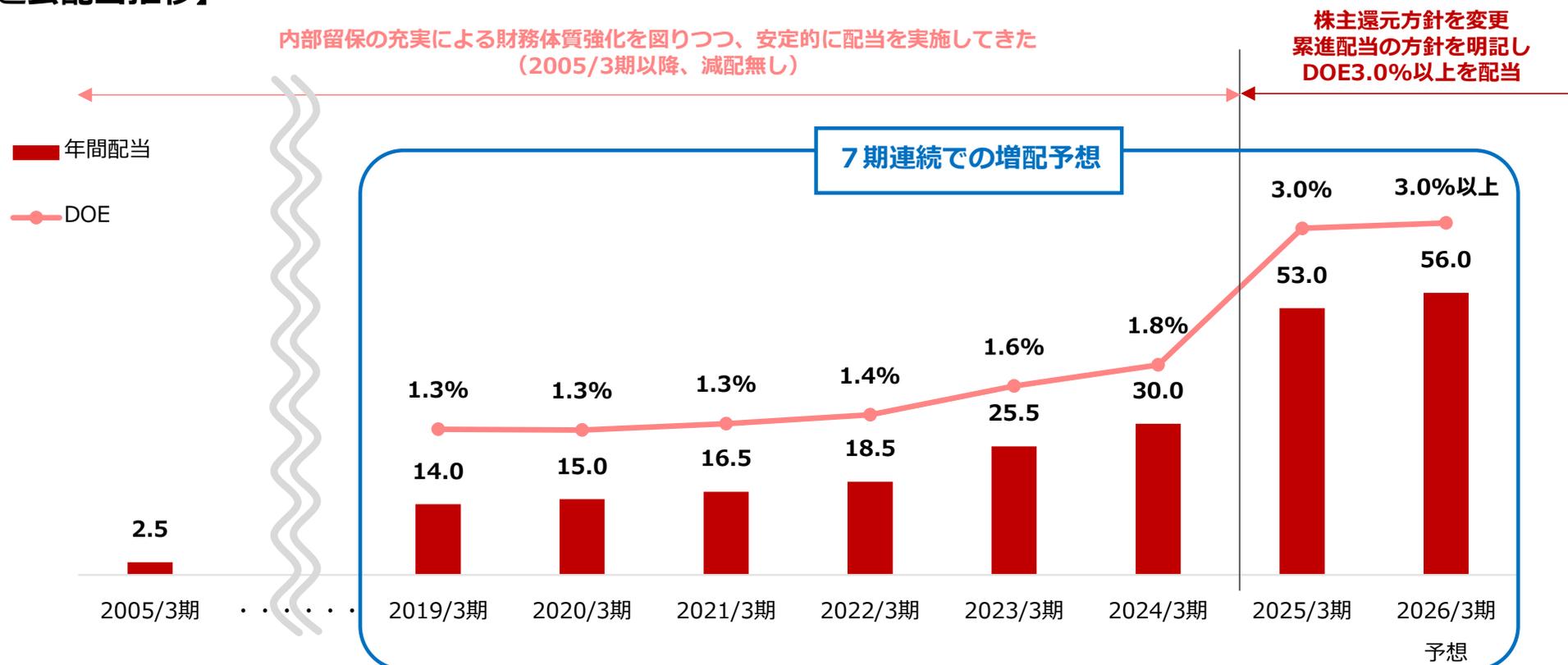
2026年3月期 配当予想・過去配当推移

【2026年3月期 配当予想】

	前期実績 (2025年3月期)	配当予想 (2026年3月期)		中間実績 (2025年9月期)
中間配当	17円00銭	28円00銭	+11円00銭	28円00銭
期末配当	36円00銭	28円00銭	△8円00銭	—
年間配当	53円00銭	56円00銭	+3円00銭	—

- 現中計期間中の累進配当かつDOE3.0%以上とする株主還元方針
- 足許の業績の進捗状況等を踏まえ、**中間配当については、当初予想通り一株当たり28円00銭の配当を実施**
- なお、期末配当は一株当たり28円00銭、年間配当は56円00銭の予想
今期業績予想（当期純利益3,700百万円）に基づく連結配当性向は34.2%、DOEは3.0%以上となる見通し

【過去配当推移】



【お問い合わせ先】**株式会社九州リースサービス 総合企画部****TEL 092-431-2915****ホームページ : <https://www.k-lease.co.jp/>****■ 本資料の注意点**

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製複製、または転載等を行わないようお願いいたします。